

<美術科の実践> B-1 題材の目標 B-2 題材計画 B-3 指導法の工夫 (題材観・生徒観・指導観・評価観)
--

B-1 題材の目標

- ・感じた想いを意欲的に発表しようとするとともに、鑑賞の楽しさを主体的に味わおうとしている。
(①関心・意欲・態度)
- ・自分の中に新しい価値や意味を生み出しながら、作品のよさや魅力を表す言葉を考えることができる。
(②発想や構想の能力)
- ・選んだ作品のよさや魅力・展覧会の特徴などが、よりよく他者に伝わるように、造形言語を意識した言葉や視覚的効果を利用した資料として表現することができる。
(③創造的な技能)
- ・他者との交流により、作品に対する見方や感じ方を広げたり、お互いが学んだことを共有化することができる。
(④鑑賞の能力)

B-2 題材計画

次(時)	目標 (○) と学習内容 (◎)	観点	評価規準	活用力をはぐくむための学習活動
一 (1)	○マイミュージアムの趣旨を理解し、テーマや中心となる作品の選定を行うことができる。 ◎石川県立美術館のWebページをもとに、テーマや作品を選定する。	①	①テーマや作品の選定を通して、鑑賞の楽しさを主体的に味わおうとしている。	
二 (3)	○選定した作品のよさや魅力を造形言語を意識しながら、自分の言葉で表すことができる。 ◎作品と向き合い、作品との対話を進めることで、そのよさや魅力を考え、プレゼンテーションの資料に表していく。	② ③	②作品の魅力を表現するための言葉を、造形言語を意識しながら考えることができる。作品鑑賞を通して、新しい価値や意味を生み出すことができる。 ③作品のよさや魅力が、よりよく他者に伝わるように表現の工夫をすることができる。	鑑賞活動を通じて感じ取ったことを、造形言語を意識しながら言葉として表現する。展覧会を企画するという条件の中で自分の考えをまとめる。 【B- 1 ・4】
三 (2)	○自分の企画展の特徴や選んだ作品のよさを自分の言葉で語るることができる。また他についても共感的な姿勢でそのよさを感じ取ることができる。 ◎マイミュージアムの企画案を中間発表し、鑑賞する。練り上げにつながるヒントを見つける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">C-1 指導案</div>	① ④	①自分の企画案の魅力が他に伝わるように意欲的に発表しようとしている。 ④他の案を鑑賞して、そのよさを感じ取るとともに、見方を広げることができる。	課題解決の意識を持って他者の考えに触れることで、自分の考えを深めながら企画案の工夫・改善・発展へとつなげる 【B- 5 ・6】
四 (2)	○様々な思いを巡らせながら、自分の企画案を魅力あるものに練り上げることができる。 ◎企画案を練り上げ、完成させる。美術館に対して発信する。	① ④	①鑑賞の楽しさを見だし、味わっている。 ④鑑賞を通して感じたよさや魅力を自分の言葉で説明することができる。	

B-3 指導法の工夫（題材観・生徒観・指導観・評価観）

(1) 題材観

生涯学習の視点で見た時に、ほとんどの生徒が「制作側」ではなく「鑑賞側」として美術との関わりを持っていくだろう。よって、生涯にわたって能動的に美術を愛好していくことのできる「鑑賞者」としての礎を、学校教育の中で適切に築いていくことは重要な意味を持つと言ってよい。これは美術科が担わねばならない今日的意義の一つであると考えており、本題材はこの思いを中心として設定したものである。

さて、美術作品を鑑賞する際には、美術館を訪れるのが一般的である。本物と対峙してのみ得られる色や材質感・雰囲気や迫力・空間・存在感が、そこにはあるからである。実際、積極的に美術館を活用した鑑賞授業の実践例も増えてきているが、時には物理的に困難な場合もあり、決して十分であるとはいえないだろう。そこで、世界中の美術作品を鑑賞したり、鑑賞の楽しさを簡単に味わうことのできるインターネットを活用した鑑賞授業を開発し実践していくことは、これからの鑑賞授業において更に大切な視点となっていくに違いないと考える。本物が持つ迫力には遠く及ばないが、その概要を簡単につかむことのできるインターネット上のWebページを利用した鑑賞活動を効果的に行うことで、鑑賞の楽しさを味わわせ、生涯にわたる能動的な鑑賞行為の礎を築く活動の一環としていきたい。

以上のもと、開発・実践しているのが、石川県立美術館のWebページを利用した鑑賞授業『マイミュージアム』の取組である。このWebページには、美術館が所蔵する3000点近い作品の充実したデータベースがあり、生徒のあらゆる発想に対応できるだけの検索方法を備えた非常に使いやすい内容となっている。本題材は、そのWebページを利用して行った1学期（6月）の鑑賞授業『どこでもミュージアムIN邑知・PART I（石川県立美術館との共同企画であり、Webページをもとにした鑑賞授業の後、移動美術館として石川県立美術館の所蔵品の中から19点の作品が本校体育館に展示された）』の続編として位置づけたものであり、今回は石川県立美術館の所蔵品を基にした展覧会を企画する活動が中心となる。企画案が完成した後は、実際に石川県立美術館の学芸員の方々にプレゼンテーションをして、講評をいただく予定である。

(2) 生徒観

3年生は美術好きの生徒が多く、毎週の授業を楽しみにしている声をよく聞く。インターネットを使った鑑賞授業や作品を直接目の前にした対話型鑑賞は、1学期の実践が初めての経験であった。ここでは、まず美術館のWebページを使用して作品の概要をつかむための鑑賞活動を行った。そして生徒自身の想いを大切にしながら作品の世界へと入っていく活動を展開する中で、美に対する自分の意識を造形言語を用いて言語化していくことを意識させた。事前に作品に対する想いを、Webページを利用して深めておいたために、実際の作品との鑑賞場面では、作品が持つ力を受け取りながら自分の想いを更に具体化させ、「みる」行為を深化させていた生徒が多く見られた。それらの活動を通して、じっくり作品と向き合いながら作品との対話をしてきたために、今回の授業に対して抵抗を感じている生徒はおらず、大変意欲的に取り組んでいる。今回の授業を通して、美術館を身近な存在として感じるとともに、鑑賞の楽しさを更に深く実感できるようにしていきたい。そして生徒の「みる」行為をもう一段階昇華させていきたい。

(3) 指導観（指導の力点 B-①、B-④、B-⑤、B-⑥）

1学期の実践を踏まえ、今回も作品鑑賞を通しながら様々な視点から思いを巡らせ、自分の中に新しい価値を生み出していくことに主眼を置きたい。今回の趣旨である「企画展の提案」を展開させていくためには、より能動的で深い形での自分の目と心による作品のとらえが重要となってくる。自信を持って作品への想いを自分の言葉で語るができるように支援していきたい。

具体的には、まずは展覧会テーマもしくは展覧会に飾りたい中心的な作品の決定から始める。そして展覧会の作品の選定に入る。展覧会をゼロから企画していくことを通して、「マイミュージアム」への意識の高まりを狙う。次に、作品の魅力を色や形などを切り口とした造形言語を意識しながら言葉として表現していく。ここでは【B—①、B—④、B—⑤、B—⑥】を指導の力点とし、鑑賞の学習における言語活動の充実を狙っていく。その際、言語活動が豊かなものになるような視点（作品の着眼点や作品の世界に入っていくことができるような授業の雰囲気等）の指導を行うことで、内容の充実を図りたい。

本時は、企画案の中間発表として設定した。自分が考えた案を発表し、他者との交流を図ることで、見方や感じ方が広がることを期待する。想いの相互交流が実現できれば、相互の学びが深まると考えたからである。そして【B—⑤、⑥】を本時の指導の力点とし、事後の企画案の更なる練り上げの段階へとつなげていきたい。最終的には、美術館側への企画案の発信を行い、発信を受けた学芸員からの講評を個々にいただく予定である。以上を通して、美術館を身近に感じるとともに、生涯につながる鑑賞活動の礎のきっかけとなるようにしていきたい。

(4) 評価観

美術科においても言語活動は、今後充実させていかねばならない分野である。本題材は、言語活動を中心とした企画案の発信の内容であり、言語活動の質を見極めることが評価につながっていく。具体的には、生徒の活動の様子を観察や完成後の資料を基に質の深まりを見取っていきたい。